

1. 評価結果概要表

作成日

平成 19年 12月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	4071200622		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム 怡土		
所在地	福岡市西区徳永1065-1 〒 819-0375 (電話) 092-807-7576		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年12月14日	評定確定日	平成20年1月7日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 10月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人 常勤	6人 非常勤	3人 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4(一部2階)階建ての~	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(75,000円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000円程度	

(4) 利用者の概要(11月 25日現在)

登録人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	名		
要介護5	名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.78歳	最低	79歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団朝菊会 昭和病院 / 昭和歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

土地の区画整理が進む中、徒歩10分圏内に新駅とショッピングセンターがあるなど利便性が高いホームである。地域密着型サービスへ移行したことに伴い理念の再検討を行い、「一人ひとりを尊重し、和気あいあいと生きがいのある暮らし」を理念に掲げ、地域との日常的な何気ない付き合いを通じて生きがいある暮らしに取組んでいる。入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、本人の思いに寄り添い、書道や絵、縫い物や編み物、陶芸などの趣味活動や日課としてのお参りを支援するなど取組んでいる。地域に住む独居老人や認知症高齢者宅への安否確認など、母体法人より情報を得たり包括支援センターとの連携の中で、ホームとして出来る事から柔軟に対応してほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を受けて、地域との連携に更に取り組んだり、入居者のレジでの支払い支援を行うなど、質の向上に向けた具体的な改善が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価の受審にあたり、職員間で担当分けして内容を再確認しまとめるなど、職員を交えての取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、包括支援センター職員、家族等の出席のもと、2ヵ月毎の開催がある。地域との関係作りとして作品展の回覧や呼びかけをお願いしたり、グランドゴルフやボランティアの情報提供を受けるなどの取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけやその都度の連絡、ホームたよりの送付、家族会時での説明などを通じて、日常の様子を報告し、家族の意向の表出に努めている。家族からの意見等に対しては、申し送り時に職員へ伝えるなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的な散歩での挨拶や何気ない会話、地域にあるショッピングセンターへの買い物、近所の方からの野菜等の差し入れをいただくなど、ふつうの付き合いがある。また、ホーム作品展への来訪やしめ縄作りを通じた交流など、地域との交流がある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	勉強会時に職員全員で今までの理念を再検討 し、「地域を意識した生きがいのある暮らし」 を、理念の中に盛り込んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に理念を意識するように努め、勉強会 時に話し合うなど、理念の実践に向けての取組 みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	日常的な散歩での挨拶や何気ない会話、地域 にあるショッピングセンターへの買い物、近所 の方からの野菜等の差し入れなど、地域との交 流がある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果を受けて、地域との連携に更 に取り組んだり、入居者のレジでの支払い支援 を行うなど、質の向上に向けた具体的な改善が 見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、包括支援センター職員、家族等の出席のもと、2ヵ月毎の開催がある。地域との関係作りとして作品展の回覧や呼びかけをお願いしたり、ボランティアの情報提供を受けるなどの取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター職員の、運営推進会議への参加や併設ケアハウスへの訪問時に、状況報告は行われているが、積極的な連携への取り組みはこれからである。		運営推進会議時等を利用して、制度などについての説明依頼や介護予防等の行政の取り組みに協力するなど、地域密着型サービスとしての積極的な連携に取り組み、活発に話し合える関係作りの構築に取り組んでほしい。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族に対して、家族会を利用した制度説明や、成年後見制度の手続き実績がある。また、職員は様々な研修を通して制度について学ぶ機会がある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけやその都度の連絡、ホームたよりの送付、家族会時での説明などを通じて、日常の様子や状況を報告するなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけやその都度の連絡、日常の記録を提示しての説明などを通じて、家族の意向の表出に努めている。家族からの意見等に対しては、申し送り時に職員へ伝えるなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この2年間は、職員の異動や離職はなく馴染みの関係が構築されている。あたらしい職員が入ってきたら、入居者一人ひとりと挨拶を行い、馴染みの職員がメインでつくなどの工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別による制限は行われていない。職員の趣味や特技、アイデアを活かして、入居者と一緒に趣味活動や行事などにかかわるなどの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は、様々な研修を通じての取り組みはみられるが、ホームとして人権意識を喚起するような取り組みは行われていない。		介護職員の基本的資質である人権意識の喚起のために、行政等で行われる講話への参加や行政の出前講座を利用した法人全体としての取り組みなど、全ての職員が広く人権について学べるように取り組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修の情報を提供し参加を募ったり、職員の資質を見極めた上で外部研修への参加を促すなどの取り組みがある。月に1度の職員会議時に勉強会を開くなど、研修参加の機会を設けている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生を受け入れており、研修生受入れ時の情報交換は行われているが、同業他社との職員レベルでの連携や交流は今後の課題である。		グループホーム協議会を通じての同業者との交流やネットワーク作りを図るなど、職員の質の向上に向けて、さらなる連携や情報交換などに取り組んでほしい。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	ホーム職員が面談に赴いたり、入居前のホ ーム見学、併設施設で行われるクラブ活動への ホーム入居者の参加など、様々な機会を利用し て馴染みの関係を構築するための取組みがあ る。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	干し柿の作り方や結び方、戦時中の話など、 日常のかかわりを通して様々なことを学ぼうと する姿勢が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、 意向の把握に努めている。困難な場合 は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて、本人の思いや希望 の把握に努め、ホームたよりの中に、本人の希 望・思いとしての一言を載せたり、介護計画に 反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	家族面会時の声かけやその都度の連絡、家族 会時などを通じて家族の意向の把握に努めてい る。介護計画作成時に入居者の意向を必ず聞 き、職員間で検討しての介護計画の作成があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	日々の申し送りを利用しての情報交換は行 われているが、月に1度程度の入居者本 人や家族の意向の確認等は行われてい ない。		チームケアの観点から、変化のあるなし にかかわらず、月に1度のカンファレン スを行い、職員の気づきを取りまとめ、 入居者の現状の把握と現状に即した 介護計画の作成に取り組んでほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を 活かした柔軟な支援をしている	家族状況に応じて、かかりつけ医への 支援は見られるが、その他の対応はこ れからである。		地域に住む独居老人や認知症高齢者 宅への安否確認など、包括支援セン ターとの連携や母体法人より情報を 得て、ホームとして出来る事から柔 軟に対応してほしい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切な 医療を受けられるように支援してい る	ホーム協力医への受診はホーム対 応にて行われている。かかりつけ医 や皮膚科、眼科等への受診は、基 本的には家族対応であるが、家族 状況に応じてホームで対応するな どの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ 医等と繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	重度化や終末期におけるホーム 体制について、入居時に説明が行 われている。日常の何気ない会 話を通じて本人の気持ちを聞く など、本人・家族の希望に沿った 支援への取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の話を傾聴し、入居者の思いや行動を 否定せず対応し、入居者に対してお礼の言葉を のべるなど、入居者一人ひとりの人格を尊重し た対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、 食事のペース、食後や日中の過ごし方など、入 居者のペースを尊重したケアが実践されてい た。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事は併設ケアハウスで調理されているが、 食事の盛り付けや配膳、下膳など、入居者と職 員が共に行っていた。職員は入居者と同じテ-ブ ルを囲み、和やかな雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本的な入浴日の設定はあるが、入居者の希 望に応じて入浴日以外での入浴も可能である。 また、午後から夕食前までの時間帯で入浴が可 能であり、一番風呂希望や最後の入浴希望な ど、入居者の希望に沿った対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握した上 での、書道や縫い物、編み物、絵などの趣味活動 及び、毎日の日課としてお参りへの支援があ る。また、食事の盛り付け、配膳、下膳など、 その時々において出来る事を見つけての支援が ある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	気候の良い日のホーム周りの散歩や外気浴、 その都度のショッピングセンターへの買い物な ど、外に出る機会を見つけての支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	オートロック形式のドアを採用しており、 ホーム内からはボタンひとつで自由に外へ出ら れる状況である。入居者の状況を良く観察して おり、外出傾向の強い入居者に対しては、常に 見守り、一緒に外出するなど、安全面に配慮し た対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、併設ケアハウスとの合同の避難訓 練の実施がある。運営推進会議を利用して、避 難訓練への参加を呼びかけるなどの取組みがあ る。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事は併設ケアハウスで調理されており、栄 養士による献立の作成と食事摂取量のチェック により、栄養バランスの把握がある。テーブル の上にお茶を常備することにより、十分な水分 量確保のための配慮がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く開放的であり、ソファや テーブルのスペースなど、ゆっくりと自由に過 ごすことができる。リビングから、ウッドデッキ に下がっている干し柿を眺めることが出来、 テーブルの上には季節の鉢植えやお茶ポットが 置かれるなど、家庭的雰囲気があった。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、絵や書道、鉢植えなどの趣味の道 具、箆笥やぬいぐるみ、写真などの使い慣れた ものや馴染みの物が持ち込まれており、入居者 の人となりが伺える居室であった。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号